

LEARN WITH ソフトバンク ～魔法のプロジェクト～ インクルーシブ教育 実践事例

事例の活用について

※本事例の知的財産は投稿者に留保されます、使用される際には出典として
「LEARN WITH ソフトバンク ～魔法のプロジェクト 組織名」 を記載ください。

■基本情報

組織名： 群馬県立前橋高等特別支援学校

所在地： 群馬県前橋市

※都道府県・市区町村

氏名： 藤井亮信

投稿月日： 2026年 2月 6日

■インクルーシブ対応を検討するきっかけとなった児童・生徒（※以下「対象の子ども」と略）について

対象の子どもの学齢 高等特別支援学校1年

例：小6 12歳

障害種別：
知的障がい、知的障がいを伴う ASD
高機能自閉、アスペルガー症候群 読み書き障がい
注意欠損多動性障がい (AD/HD) 肢体不自由
聴覚障がい 構音障がい 視覚障がい 病弱
重度重複障がい その他 ()

主訴（主な困り）
読む 書く 聞く 見る 話す 記憶する 移動する
その他 ()

その他補足
読み書きは苦手だが、SNS等の利用は盛んであり、短い文章のやり取りで友達同士楽しんでいるが、誤解やトラブルに発展することもある。また、音声言語や文字の理解にばらつきがある。

■対象の子どもが利用している ICT について

①利用端末（ハード） タブレット PC その他（ ）

②OS Windows MacOS Chrome Android iPadOS その他

③使用した ICT の機能やアプリを教えてください。複数あれば、ボックスを追加して記載してください。ネイティブアプリ（最初から搭載されているアプリ）の URL は記載不要です。

名称：Canva

紹介 URL： <https://www.canva.com/>

名称：NotebookLM

紹介 URL： <https://notebooklm.google.com/>

④上記の ICT を活用して、対象の子どもの困りをどのように軽減されたかを詳しく記載ください。

LINE の使い方に関する約束を理解し、自分なりの考えを表現することを目標に、「人間関係づくり」をテーマとした学年集会を実施した。

LINE を用いたトラブルが生じる場面を再現した動画を視聴した後、生徒同士で意見交換を行った。意見共有の場として Canva のホワイトボード機能を用い、出された意見や約束を可視化した。

さらに、それらの内容を PDF 化し、NotebookLM にソースとして入力してスライド資料を作成することで、イラスト等を交えながら様々な実態の生徒がいる学年全体で共有できるようにした。

■インクルーシブ対応状況について

1 インクルーシブ対応の検討の 児童生徒は、どの範囲まで利用が可能ですか？

教科	<input checked="" type="checkbox"/> 全ての教科で使用可能 <input type="checkbox"/> 特定の教科のみ使用可能
場所	<input type="checkbox"/> 通級等のみ <input type="checkbox"/> クラス限定 <input type="checkbox"/> 学年限定 <input checked="" type="checkbox"/> 学校全体
利用シーン	<input type="checkbox"/> 宿題 <input checked="" type="checkbox"/> 授業中 <input type="checkbox"/> 小テスト <input type="checkbox"/> 定期テスト <input type="checkbox"/> その他 ()

2 周囲の児童生徒が ICT を使用するにあたり、個別の許可が必要ですか？

はい いいえ

■インクルーシブ対応に向けての工夫について

①前問で、「いいえ」と回答された方にお伺いします。環境整備に向けた実施事項/工夫点について記載ください

実施事項/工夫点

- ・教師が入力するため、生徒や保護者に対する許可は不要。
- ・自治体ごとに、AI を使えない場合や使える AI が異なる点に注意。
- ・一人でも、NoteBookLM に関する知識をもった教師がいれば実施可能。

■その他

参考になる写真があれば、こちらに添付してください。
 ※個人の写真が含まれる場合、事前に保護者の許可が得られているものに限ります。
 詳細は投稿要綱をご確認ください。

課題と意見①



解決策①

解決策 (かいけつさく) : 勇気(ゆうき)を出して離(はな)れる

「無視むしはしない」と送る
「無視はないよ」と伝える

いじめる人たちから距離(きょり)を置く
グループを抜ける

解決策 (かいけつさく) : 誰(だれ)かとつながる

一人じゃないよ:
グループから外(はず)された人と
なにかよ
仲良くする。

すぐに相談(そうだん)
親、先生、カウンセラーに話そう。

親(おや) 先生(せんせい) カウンセラー

課題と意見②

みんなで無視しよう、とLINEで言われたら？

無視しない

無視をしない

両方と関わる

相談する

親や家族に相談する

親に相談する、いじめが起きないように先生に相談する、

嫌な気持ち、悲しい気持ち

無視をなくすように親に相談、専門的なカウンセラーに相談する、先生にも相談

グループを外れる

無視した人達と関わらず、他の友達と仲良くする

大人、先生、親に相談する。今のグループから外された人と仲良くする。

無視した人とは関わらず、他の人と仲良くする

今のグループから外された人と仲良くする

いじめてくる人から距離を置いていじめられている人によりそう。

アタック

すぐに無視するをOKしないで理由を聞く

無視はないよって送る

解決策②

解決策（かいけつさく）：^{たし}確かめる



• ^{おこ}すぐに怒らない！

• ^{いみ}意味を聞く：「^{かい}どういう^か意味？」と聞く。

• ^{りゆう}理由を聞く：^か「^{しだん}なんで？」^がと言った理由を聞いてみる。

• ^はその場で^{ていせい}訂正：^{まちが}間違えたら^{なお}すぐに直す。

© NotebookLM



■変化や効果について

①対象の子どもにどのような変化がありましたか

LINEの使い方を視覚的に確認する機会を設けたことで、音声言語や文字情報のみでは理解が難しい生徒も含め、全員が活動に参加しながら、共通の約束を確認することができた。授業終了後も、生徒同士の話し合いは廊下や各教室で継続して見られ、LINEの適切な使い方について多角的に考え、それを友人と共有しようとする姿が確認された。また、トラブルの件数自体が大きく減少したわけではないものの、生徒が自ら教師に相談する場面は増加し、トラブルに発展する前の段階で、教師と協力して対応することが可能となった。

これらのことから、「教師が伝えたいこと」に活用するだけでなく、「生徒から出た気持ち、意見」をわかりやすく表現することは、生徒の自己効力感の育成につながることを示唆された。

②対象の子ども以外の児童・生徒や、学校全体にどのような変化がありましたか

本校独自の教科である「社会生活」の中で取り組んだ「働く意味」について生徒から出た意見をまとめた。(インフォグラフィック)また、交通安全委員会での1年の振り返りや来年度の展望について出た意見をまとめた。(スライド生成)

人はなぜ働くのか？—高校生の視点—
高専科課程の授業で生徒たちが「人はなぜ働くのか」という問いに対して話し合いを重ねる機会がありました。生徒の意見から、社会生活の大切さや、自分自身の成長につながる理由が明らかになりました。

個人の基礎を築く理由

- ① 生活・社会のため
衣食住、安全、健康に保たれるという基本的な目的。
- ② 自分を伸ばすため
知識や能力を高め、スキルや経験を学ぶ目的。
- ③ 人としての自分をつくるため
他からの期待を受け、自分らしい人間性を形成する。

社会とつながる理由

- ④ 社会で生きていくため
社会としてのマナーやルールを守り、責任を果たす。
- ⑤ 親睦・やりがいのため
仲間や先生と協力して、課題を乗り越える。
- ⑥ 社会や自然のため
社会貢献して、より良い未来をつくる一助となる。

まとめ：生徒の意見から見えること

働く理由の一つではないが、健康・親睦・やりがい、責任感が挙げられました。
“働く=しんどい”ではなく“意味の融合”
大人の期待でも見られないほど、関心した理由である。

交通安全委員会：1年間の活動報告と新入生へのメッセージ

1年間の活動ふりかえり

- ルールを守って安全な登下校を実践
ヘルメット着用や車の動きを意識するなど、1年間がんばりました。
- 啓発活動の周知が今後の課題
安全を呼びかける声掛けやポスターの活用改善の余地がありました。
- 周囲への配慮と謝罪
他の人の通行を妨げた際は、しっかり謝ることができました。

新1年生へ！守ってほしい交通ルール

- 「ながらスマホ」は絶対にしない
歩くときも、自転車に乗るときも、周りをよく見てください。
- 信号や横断歩道がなくても左右を確認
車が来ていないか、自分の目でしっかり確かめましょう。
- 自転車は「左側通行」
交通ルールを守って、安全で楽しい学校生活を送りましょう。

さらに授業研究会の議事録をもとに、同じ手順でまとめた(動画生成)ところ、好評だった。

https://drive.google.com/file/d/1UCruzypYO_2ViuyaDtREViSX482p_1oa/view?usp=drive_link



意見交換をした約5分後に、まるで魔法のようにこれらのコンテンツが生成されるため、生徒が興味をもつのは当然として、教師も驚きとともに「今のどうやったんですか?」「私もできるんですか?」と質問して下さったため、本校全体の中で使用が広がっていく機運が感じられた。